

1月23日(土)第4回「ほっと・ぼらんていあ」の報告

今回は、「命をありがとう～白血病を乗り越えて～」というテーマで、実際に**骨髄移植を受けて白血病を乗り越えた、福島県骨髄バンク推進連絡協議会運営委員の志賀としえさん**をゲストにお迎えしてお話ししていただきました。**志賀さんは、22歳の時に発病し、その2年後に骨髄移植を受けて、その何年か後には大腿骨頭壊死症で手術をしました。**その後、同じく**骨髄移植をして元気になった男性と結婚し、3年間悩んだ末に3歳半**(現在小学校3年生)の**男の子の里親**になりました。そして、あと少しで**1年**を迎えようとしていた時に、**東日本大震災**が発生し、実家の**気仙沼市**に住んでいた**両親と義理の姉を亡くし**、また悲しみのどん底に突き落とされましたが、今はそれを乗り越えて、本人は**原発事故**に翻弄されながらも**明るく前向きに生きています。**

「病気を宣告された頃に出会った“**苦しみを乗り越えれば自分の強さになる**”という**言葉に励まされ**、両親を亡くして間もなく、テレビに映し出された母校の**気仙沼市立階上中学校卒業式の生徒会長の答辞に背中を押され**、**子どもの無邪気さに救われて前**に進むことができました。また、拒絶反応で苦しんでいた時には**ドナー(提供者)からいただいた手紙が心の支え**になりました。**宝物**として毎日持ち歩いています。手紙には、『**すごい確率の中、出会ったあなたへ 命のカケラ受け取ってください。これからが本番です。長く辛いかも知れないけれど、頑張っ**て**昨日と明日の間を生き抜いてください。それでは、いつか、どこかで**』と書かれてありました。私が**生きてさえいれば、いつか命の恩人に逢うことができるかもしれない**という思いで、気持ちだけで辛い時期を乗り越えることができました。そして元気になった後に**大谷貴子さん**(日本骨髄バンクの立ち上げに貢献した立役者)に**出会い**、自分も、**誰かの気持ちを動かせる人になりたい**と思い、この活動に参加することにしました。**人生、生きていると楽しいことばかりじゃない。どんな苦しいことも自分の人生に起こることってムダなことってないんだなあって思っている。その苦しみがあったからこそ、こんな風に考えられるようになったし、沢山の人の支えられて自分の命があるって考えられるようになったし、病気をしたからこそ今この人生を送れている。お金に換えることができない心の財産が増えているような気がする。自分の人生を変えるのは自分の考え方次第だ**と**思っている。**」と笑顔で力強くお話ししてくださいました。

参加者から～命の大切さを実感しました。人生の勉強をさせてもらったような気がしました。人生に病気がどのように影響を与えるのか、考えるキッカケになりましたなどの感想をいただきました。

「ほっと・ぼらんていあ」の**次回は**、弘前市民参画センターで**3月12日(土) 13:30～15:30**まで、**ポレポレの会代表**(オカリナを中心とした演奏活動)の**和泉昌江さん**をお招きし、**活動の紹介とミニコンサート**を開催する予定です。**ボランティアに興味のある方に限らずに、みなさんのご参加をお待ちしています。**